

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鳥 取 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	鹿 野 小 学 校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	23
児童数	45	44	53	49	52	54	4	301	

研究の概要

1 研究主題

「児童個々の学力の質が向上し、学びの質が高まり深まる学習を求めて」

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年で国語と算数を中心として行う。

全職員で本校の児童の実態を話し合い、「話すこと」「書くこと」を通して伝え合うこと・自分の考えを論理的に組み立てることが課題として浮かび上がってきた。そこで、全学年において国語と算数を中心にして授業改善に取り組み、本校児童の課題である「話す」「書く」「筋道を立てて考える」を身につけさせたいと考え、実践してきた。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 国語と算数を中心にして筋道を立てて考える力を育てる研究 研究の見通し 国語と算数を中心に研究を進め、習得した知識や技能に基づいて自ら考え問題を解決しようとする力、筋道を立てて自分の考えを表現しようとする力をつけ知的好奇心・探求心を育てたいと考えた。そのためには、まず教師一人一人の授業の力量を高めることが必要で、授業研究会を通じた授業改善を中心に取り組んでいくことにした。</p> <p>研究の内容・方法 内容 (1) 国語 研究の視点 「伝え合う力」を確かに身につけさせることを目指した授業改善の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低・中・高学年ごとの目標を設定し、常に目指す力を意識した工夫をしていく。 ・ 相手意識・目的意識を持った単元構成をしていく。 ・ 図書館(司書教諭との連携)の活用を考えていく。 <p>(2) 算数 研究の視点 発展的な学習の充実を目指した個に応じた指導の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展的な学習の研究を中心として少人数学習のグループごとの展開を見直す。 ・ 学び方の充実を意識した学習展開を工夫する。 <p>(自分の考えを筋道立てて、友達と関わりながら、主体的な取り組みを)</p> <p>方法 ・ 全体授業研究会 1学期初め 国・算1回ずつ 2学期終わり 国・算1回ずつ ・ 部会授業研究会 低学年部 2学期中 各学年国・算1回ずつ</p>
--------	--

平成15年度の研究成果及び今後の課題

- ・ 全ての授業研究会で講師を招聘し指導助言していただいたことで、様々な成果や課題をみつけることができた。

1 研究成果

(国語)

- ・ 伝える相手を明確にした単元設定をすることで、児童の学習意欲が高まった。伝えた相手から返事が返ってきたり、自分たちの文章が学級外の人の目に触れたりすることにより、児童のその後の活動に向けての広がりや励みにもなった。
- ・ 単元構想を考える段階で、児童の実態と系統性を考えて、どういう力をつけることを目指すのかということを明確にして取り組んだことにより、方向性のはっきりした学習展開が可能となり、書く力や話す力をつけるためにスモールステップで学習したりスキルの学習を取り入れたりすることができた。
- ・ 司書教諭が関わることで、専門性を生かしたきめ細かな支援(教材文の読み聞かせ、ブックトーク、図書資料の収集・紹介、資料提示など)が可能となり、担任だけで指導するときより、図書館を活用した広がりや深まりのある学習を展開することができた。

(算数)

- ・ 「発展的な学習の充実」の研究を行うことで、ただ教科書の通りを繰り返していけばいいのではなく、「豊かに学ばせる」ことを考えていこうという意識改革・授業改革の第一歩が踏み出せた。本校の少人数指導の形態を生かした個に応じた発展学習を展開していこうとする教師集団の意識が高まった。
- ・ 発展のさせ方にいくつかのポイントがあることが分かった。一つは単元構成の工夫である。順を追って考えてきたものを、同時に提示することで教材の持つ意味理解が深まった。次に、問題作りや問題発見の学習にあったように、身の回りへの発展という観点があるということである。学習を日常生活に戻して考え、活用することで学習内容を身近なものにしていくことである。
- ・ 発展的な学習をすることによって、児童に「発展的に考えていこうとする態度」「算数のおもしろさを感じながら積極的に取り組む態度」がだんだんと育ってきた。

2 今後の課題

(国語)

- ・ 相手意識を持たせることで、児童の意欲関心を高めることができた。今後は、相手意識を持たせることにより、児童にどういう力をつけることが可能かというところまで考えてみる必要がある。
- ・ 伝え合うことを学べるような場面設定をする必要がある。また、伝えるだけでなく、聞くことについての指導を意識していく必要がある。
- ・ 司書教諭が、それぞれの授業にどのような情報提供(内容や方法)をすれば効果的な支援ができるか考えていきたい。

(算数)

- ・ 発展的な学習を特別なものとしてとらえず、普段の学習に意図的に設定することを意識して取り組んでいく必要がある。
- ・ 学習の根底にどんな見方や考え方が働くか、事前に教材研究によって明らかにした上で授業に臨む必要がある。
- ・ 発展的な学習を行って児童の理解を豊かなものにし、算数的な考え方を伸ばしていくためには子ども同士の学び合い・関わり合いを充実させる必要がある。

学力等把握のための学校としての取り組み

- 教研式 NRT(学力診断的検査) 児童の学習状況の実態把握のため
国語・算数 2～6学年
5月中に実施
- 鳥取県小学校診断テスト 児童の学習状況の実態把握のため
国語・算数 1～6学年
2月上旬に実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 授業研究会 ・13回 6月23日(5年算数)
7月2日(5年国語)
10月1日(4年算数・6年算数)
10月17日(2年国語・4年国語)
10月22日(2年算数・3年国語)
11月14日(1年算数)
11月17日(6年国語)
11月21日(1年国語)
11月28日(3年算数)
2月26日(4年英語活動)
- ・郡内全小学校、町内中学校・幼稚園を対象として
 - ・研究、実践の内容を広め、参考にしてもらうのと同時に、その真価を問うため
- 学校説明会 ・2回 4月14日・15日(2日間)
12月11日
- ・地域住民、保護者を対象として
 - ・児童の実態や研究の趣旨・内容を説明し、理解と協力を得るため
- パンフレットの作成 ・保護者、学校評議員会的な町の組織、一般来校者に向けて
- フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績
- ・学校説明会での研究の趣旨・内容の説明
 - ・研究の内容を具現化したモデル授業の提案・実施
 - ・中学校との連携のコーディネート
- 研究成果の普及活動の成果
- ・郡小教研の部会で、本年度の取り組みと成果・課題を紹介し、郡内小学校の取り組みの参考となるようにした。各校の実態に合わせ、本校の取り組みを活用した事例が見られるようになった。(年3回の部会で)
 - ・授業研究会への中学校教員の参加が数回あり、校区内中学校の本校研究への理解と協力が得られるようになった。

